

ぬぐりの達人

GOO環境相会合に奇せて

ドライブ、調理、買い物、生産活動……。日々生まれる温室効果ガスの二酸化炭素(CO₂)を減らそうとしても、どうしても出てしまう分がある。そこで、他の場所での技術改良などによる排出削減量を買って取り、そうした事業に投資することで相殺する。この「カーボンオフセット」という考え方が、7月の北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)の運営でも取り入れられる。サミットを開催すれば、海外から集まる要人たちが利用する交通機関や、会場で使う電力の発

排出CO₂の相殺サミットで

吉田麻友美さん(36) 東京

「カーボンオフセットに多くの人が関心を持ってほしい」と話す吉田さん 東京港区で



後世に残る事業に

電のためにCO₂が排出される。この分を相殺す。電のためにCO₂が排出される。この分を相殺す。現在、民間企業などから広く事業を募集している。例えばオフセットの

る方法を検討しているの。企画開発部長の吉田が、日本初の環境専門会計事務所「日本スマートエナジー」(東京都港区)だ。政府から委嘱され、ある取り組みを探している。麻友美さん(36)は「単にCO₂を削減できるだけでなく、支援する意義の

つに、途上国での水力発電や工場の省エネなどに先進国企業が投資する「クリーン開発メカニズム」(CDM)がある。京都議定書でも認められたが、CDMの実施国に

カーボンオフセット 活動で排出されるCO₂量を算出し、他の場所で削減された同量のCO₂排出量を買って成立する。出てしまったCO₂がなくなるわけではないが、その分を帳消しにしようという考え方。英国で90年代に始まった。トリノオリンピック(06年)で実施された。国内でもJリーグの清水エスパルスが今後5年間、主催の100試合で出るCO₂1800トンのオフセットに取り組むなど、広がりを見せている。

偏りがあるのが課題だ。政府承認事業292件のうち4割以上は対象が中国。初期投資が高額だったり、安全面のリスクが高いアフリカなどでの事業はほとんどない。吉田さんは「アフリカなどの住宅に太陽光発電設備を作ると、CO₂削減だけでなく、エネルギー自給や貧困の解決につながる。後世にも残る事業」と指摘。「サミット 地球規模の課題解決をどう目指すか。「自分の問題意識で、世の中を変えていけたら面白いな」と思っています」。その瞳は世界を見つめる。【野田武、写真も】

おわり